



鉚路体協だより

第63号

発行 鉚路市体育協会
平成24年9月30日

組織の力でスポーツの振興を

鉚路市体育協会 会長 張江 悌 治



鉚路市体育協会の平成24年度は、36の加盟競技団体と阿寒・音別の2支部により構成され、1,100団体、会員は約19,000人を数えます。

鉚路市は、恵まれた自然や体育施設などのスポーツ環境を生かし、会員はじめ多くの市民がスポーツを行っております。その活動は、

気軽に楽しむものから高い競技水準を目指すものまで実に多彩です。

一方、全国・全道大会の開催やスポーツ合宿の誘致などにより、市民がトップレベルの競技を間近にする機会に恵まれております。

このことは、各加盟競技団体が永年にわたり、スポーツを多くの市民に普及する取組を組織的に進めてきたことによるものです。

さて、一人一人がその体力や興味に応じて思い思いに体を動かしたり、ゲームを観戦したり、またこうした活動を支えたりと、さまざまなかたちでスポーツと関わりをもつことは極めて重要です。スポーツは、誰もが日々の生活にうるおいを与え、楽しみながら健康な体と心を育み、元気都市くしろを支える活力の源泉であるため、行政の施策は勿論のこと、スポーツ統括団体である鉚路

市体育協会の果たすべき役割がますます重要とされる所です。

本年度は、秋季・冬季の鉚路市体育祭や各種講習会を開催するほか、優秀選手や功労者の顕彰、全道・全国大会への協力、スポーツ少年団活動の促進、公共体育施設の整備促進に向けた要望活動などの事業を展開してまいります。

社会貢献活動としてすっかり定着した赤い羽根共同募金は、スポーツ少年団員やその保護者が活動に加わるなど、取組に広がりが出てきました。市民に体育協会の活動の趣旨をさらにご理解とご協力いただけますようお願いしております。

また、市民スポーツの底上げとして、スポーツに関わる市民数の増加を図っていききたいものです。同時に、全国大会レベルの競技会において、地元の選手やチームがさらなる活躍ができるよう競技力を向上していく必要があります。スポーツ少年団をはじめとするジュニア期のスポーツ活動を計画的に充実していくことも重要な課題となっております。

これらの実現には各加盟競技団体のご理解とご支援が是非とも必要とところです。鉚路市体育協会の組織力により、スポーツを通じて鉚路は勿論のこと、日本全体が明るくなるよう誇りをもって取り組んでいく決意です。

北上俊一氏 体育協会の功労者逝く

ご功績を偲び心からご冥福をお祈り申し上げます

昭和50年 鉚路軟式庭球協会 副理事長
昭和54年 鉚路軟式庭球協会 理事長
昭和62年 鉚路軟式庭球協会 副会長
平成20年 鉚路ソフトテニス協会 会長
平成23年 鉚路市体育協会 副会長

ソフトテニスをこよなく愛し、永年にわたり協会の運営に尽力されました。自身の長靴アイスホッケーチームを全国優勝させるなど、鉚路市のスポーツ普及発展に大きな足跡を残されました。

(平成24年8月4日 享年66歳でご逝去)

功労賞に桑野俊充氏 (全釧路剣道連盟)

功 勞 賞 : 桑 野 俊 充 氏 (63) 全釧路剣道連盟副会長



桑野氏は、37年間にわたり全釧路剣道連盟において理事及び常任理事を歴任され、現在は副会長としての要職を務め、剣道の発展に多大な貢献をしております。

現在教士7段で、国民体育大会をはじめとする各種全国大会に多数回出場。選手として活躍されました。また、高校生剣士の育成に力を注ぎ、武修館高(含:釧路緑ヶ岡高)や前身の釧路短期大学付属高時代から剣道部監督として、通算25回にも及ぶ各種全国大会に愛弟子を出場させるなど、指導者としての才腕を発揮しております。

優 秀 選 手 賞 : 館 翔 汰 君 (13) 釧路水泳協会



館くんは、東京辰巳国際水泳場を会場に開催された第34回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会において男子11~12歳の部に出場。200mの自由形で2位入賞。続く春季水泳競技大会では100mと200mの自由形で優勝。50m自由形でも2位入賞の成績を取めました。

現在、釧路市立青陵中学の1年生。釧路スイミングクラブに所属しており、今後の活躍が大いに期待されております。

8月24日夜、秋季体育祭総合開会式の前行われた表彰式では、主催者として張江会長が2人に賞状と記念盾を贈り、「桑野氏は剣道界になくはならない存在。館君は今後も精進を」とあいさつしました。

釧路市秋季体育祭総合開会式 31の競技に6000人出場

第67回釧路市秋季体育祭の総合開会式が8月24日(金)夜、「湿原の風アリーナ釧路」のサブアリーナで行われました。この体育祭は、釧路市体育協会が釧路市や釧路市教育委員会とともに主催し、種目ごとに各競技団体が主管します。

各競技の昨年度優勝チームの選手ら約300名が駆け付けた中、大会長の千葉誠一教育長が「勇気と希望を与えてくれるスポーツ。一人一人が様々な場面で活躍し、多くの方がそのあとに続いてくれることを願う。」とあいさつしました。続いて大会委員長の張江会長が「バックアップしてくれる方々に感謝しながら、釧路のスポーツ発展のため全力でプレーを」と激励しました。

最後に代表として、見田尊選手(釧路地区空手道連盟・松壽明武会)が力強く選手宣誓を行いました。はつらつ且つ堂々とした宣誓ぶりに、会場からはたくさんの拍手が湧き起りました。

体育祭は、軟式野球、テニス、卓球など既に開幕した種目もありますが、多くの大会は9~10月に集中しており、市内各地で熱戦が繰り返されます。



大会長あいさつ



優勝杯返還



選手宣誓



柔道

質の高いバスケットボールを目指して

鈞路地区バスケットボール協会 会長 土岐 政人



当協会は、昭和22年に創立され、現在ミニ28チーム・中学51チーム・高校34チーム・一般23チーム、合計136チーム、2千人を超える会員を擁し、各種大会を開催しています。

平成20年秋、バスケットボール愛好者が待ち望んでいた新たな体育館「湿原の風アリーナ鈞路」がオープンしました。オープニング事業としてWJBL（女子日本リーグ）を開催し、間近に見る国内トップ選手によるレベルの高い試合はファンを魅了し、憧れ選手の華麗なプレーは、ちびっ子プレーヤーにとっても目標になったものと考えています。

その後、全道規模の大会が、ミニ・中学・高校・一般（大学）全カテゴリーにおいて開催され、質の高いバスケットボールが身近なものとなっています。

平成24年度も全道シニア大会、全道中学新人大会など全道規模の大会の開催、さらに、鈞路エンデバープロジェクトの立ち上げにより、選手の技術力向上並びに指導者の育成にも努めてまいりたいと考えています。

バレーボール人口の拡大を目指して

鈞路バレーボール協会 会長 木村 芳人



当協会は、小学生から一般、実業団まで72団体、登録人員759人、指導者（有資格者）60人を擁し、年間35前後の各種事業を実施しています。

恒例事業以外で最近取り組んだ大型事業は、国内トップレベルチームでプレミアリーグに所属している「NECレッドロケッツ」を招聘してのバレーボール教室や、9人制バレーボールの全国大会「スーパー9オールスターズフェスティバル」の開催が挙げられます。

今年度は、9人制バレーボール最高峰の全国大会「全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会」を開催したところです。

近年は一部のスポーツを除き多くのスポーツは、少子化、スポーツニーズの多様化、指導者不足などで競技人口の減少が顕著で憂慮する事態になっております。

とりわけ、バレーボールの将来を考えると、緊急且つ最大の課題であり、今後、競技人口の拡大、普及活動に力点を置いた運営を図っていかねばならないと考えております。

「バドミントンは楽し！」

鈞根地区バドミントン協会 会長 草島 守之



当協会は学生（小、中、高、大学）と一般（男、女、シニア）の団体、個人を含め約1,400人の競技者で構成され、事務所を鈞路市北大通

4丁目のパステルビル2Fに置き事務局員1名を配し運営に当たっています。このような体制は、札幌地区は別格として、道内の他地域に比べ充実した内容になっていますが、子供たちのスポーツ離れや少子化の進展により重要な競技者の確保は年々厳しくなっており、今後の運営に不安を抱くところです。そのような状況からバドミントンの魅力を広げるための情報発信を行い、特に学生の競技力を高めるために指導者や審判員の確保をはじめ資質向上に努めているところです。そこで高いレベルの体験と地元で経済効果をもたらす全道・全国大会誘致に力を注ぎ、平成20年10月には、第27回全日本ジュニア選手権大会、平成23年12月には第20回全国小学生選手権大会を図り、全国小学生大会では今までにない楽しい開会式を演出し、参加者に大変喜ばれました。平成27年度には第45回全国中学生選手権大会の鈞路開催が確定し、万全の準備を進めて当協会の一層の充実した運営・発展に取り組んでいます。

もっと剣道を楽しもう！

全鈞路剣道連盟 会長 栗林 延次



剣道は、古くから日本の武道の一つとして多くの人に愛され、子供から年配までその体力、技量に応じて楽しむことができます。

鈞路でも約540名が会員として登録されています。愛好者が多いことの一つの理由の一つは「礼節」を重んじているからです。文部科学省が義務教育に武道を取り入れたことから、剣道のすばらしさが証明されています。

小学生から大学生までの学生が中心の団体は36団体、一般は9団体が加盟しています。一般会員も約180名います。主に鶴ヶ岱武道館で火曜、木曜の18時30分～20時、土曜日は16時30分～18時に稽古をしています。

一年を通して当剣連主催の大会も数多くあり、鶴ヶ岱武道館や湿原の風アリーナなどで季節を問わず開催されていますし、昇級、昇段審査も行われます。

子供の健全な教育として、また、生涯楽しむことのできる競技としての剣道愛好家が増えるよう、剣道祭を開催するなど、普及活動なども今後一層、積極的に進めていきたいと考えています。（文責 岩松 恵）

最高レベルの技 繰り広げられる 平成24年度 第65回全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会

7月27日(金)から29日(日)、湿原の風アリーナ釧路をメイン会場として、参加62チームが覇を争いました。

地元出場の釧路市役所は、第1日の27日(金)、予選リーグで共栄小学校会場において四国電力(香川県)、特殊東海製紙(静岡県)と対戦しました。いずれも善戦及ばず2敗を喫して決勝トーナメントへの進出は逃しましたが、自分たちのバレーが全国に通ずる手ごたえを実感したことが大きな収穫となりました。

優勝は沖縄県の中部徳洲会病院で、2年連続5度目を遂げました。

3日間日程で4会場開催、総試合数91に及ぶ大規模大会。主管した釧路バレーボール協会の見事な大会運営ぶり、本当にお疲れ様でした。



祝 釧路スケート連盟 創立60周年

釧路スケート連盟(栗林定徳会長)は、6月30日に創立60周年の記念式典を開催しました。

1950年(昭和25年)に創設。以来60年、北海道スケート界の底辺拡大にも寄与し、組織の団結力によりスケートの聖地としての地位を築き、「氷都くしろ」の名を全国に知らしめました。

栗林会長は「関係皆様は汗にまみれて歩み続けた結果が今日の連盟を築き、日本を代表する名スケーターを育成した」とあいさつしました。

50年以上役員を務めた菅来造氏、佐藤靖昌氏をはじめ競技振興に尽力した50人が永年貢献表彰を受けるとともに、「さらなる充実と発展に期待して」と題した記念誌が発行されました。



祝 釧路アイスホッケー連盟 創立40周年

釧路アイスホッケー連盟(足立功一会長)は7月7日に創立40周年の記念式典を開きました。

40年前の1972年(昭和47年)に釧路スケート連盟から分離・独立。以来、「たんちょう国体」はじめ多くの全国規模大会の開催・運営に尽力。国内有数の名選手を輩出するなど「氷都くしろ」の歩みを支えてきました。

足立会長は、「よりアイスホッケーに親しむ環境をつくり、選手を育成していくことが私たちに課せられた命題」とあいさつしました。

式典の中で、6個人と釧路市体育協会をはじめとする8団体には、その功労に対する感謝状が贈られ、団体を代表して当協会張江会長が謝辞を述べました。



編集後記

17日間のスポーツの祭典、ロンドン五輪が開催された。IOCの全加盟国204カ国・地域の全てから約一万人の選手が出場。全ての競技が、初めて男女共に実施された▼各国がひとつずつ心を込めて運んできた小さな灯し火。やがて合体して巨大な炎となり、聖火台へと姿を変えた。感動的な開会式だった▼釧路市体育祭総開会式での選手たちの参加態度は実に素晴らしかった。種目チームごとに整列し床に腰をおろして式に臨むのであるが、無駄話をする者なく、静粛、整然としていた。スポーツマンとしてのたしなみを身につけた彼らは、まさしく集団としてひとつになつていた▼圧巻は、選手宣誓をおこなった少年拳士の姿であった。稽古で磨き上げてきた成果を見事態度で示し、割れんばかりの喝采を得た。十分に指導を重ねて大舞台に送り出した指導者には頭が下がる。保護者の日々の支えも労いたい▼心を通わせ、心ひとつになれることはスポーツのよさである。開会式は、「スポーツ都市釧路市民」の目指すべき姿をみんなして誓い合った場であった。少年拳士の凛としたあの声は、いつまでも響き渡り、釧路市はスポーツの秋一色へと染まっていく。

